

日本臨床検査自動化学会医療情報委員会
令和4年度第2回委員会 議事録

1. 日時：令和4年10月8日（土） 15時30分～16時30分
2. 場所：神戸国際会議場 406号室 ※Zoomによるハイブリッド開催
3. 出席者（敬称略）：片岡、中島、前田、真鍋、下坂、山田、瀬戸山、湯地、古賀、
増田、佐藤、田中
欠席者（敬称略）：長原、和田、油野、松下、萩原
4. 配布資料
資料1：前回議事録
資料2：第4回医療技術セミナーテキスト
5. 議事
 - 1) 前回議事録の確認
 - ・資料1に基づき、片岡委員長より前回議事の報告がなされた。
 - ・前回議事に関して、委員からの発言はなかった。
 - 2) 報告事項
 - (1) 第4回医療技術セミナーについて（資料2）
 - ・片岡委員長より10月9日（日）13:00～14:50 第6会場5階501で行われる、医療情報技術セミナーは、4名の先生方により講演を開催することが伝えられた。
 - 3) 審議事項
 - (1) 第5回医療情報委員会技術セミナーについて
 - ・増田委員より、セミナーに関しては学会に来られている方が、興味を持っていただけるかが大切。セミナーのタイトルが、各検査分野の方々が興味を持つ内容であることが必要ではないかとの提案があった。
 - ・片岡委員長より、意見を集約し全員で共有した上で、4月に向けて具体的に決定したい。今回の審議では「EHR、PHRの利活用」「アウトカムデータをどのように収集するか」「MDB等の公開データを利活用する際の進め方、入手方法はどのように行うのか」「標準コードの管理運用」などが挙げられ、次回のテーマとして意見をリストアップし、議事録を参考に4月に向け審議することとなった。

(2) 今後の臨床検査項目コードの進め方と課題について

- ・片岡委員長より、学会として具体的な方向性を示した方が良いと思う。実際に管理を行っている方が、紹介する企画などを設けてはいかかとの提案があった。
- ・中島委員より、①厚労省が進めている特定健診、レセプトデータだけではなく、母子健康手帳、学童検診、自治体のがん検診の標準化は進もうとしているが、標準コードのマッピングが進んでいない。厚労省と足並みを揃えて行うことが大切ではないか。②紙カルテを利用している小規模病院に対して、補助金を出して電子化を進ませようとしては進んでいる。そのような施設では、少しずつ検査センターからのとJLAC10で連携ができるであろうと来ている。むしろ大病院ほど進んでいないとの意見があった。
- ・山田委員より、試薬添付文書に載せた製品番号のバーコードを読み取ることで、標準コードを登録される流れは、JLAC11の仕組みで可能であると思われるが、課題もたくさんある。また、導入後にコード内容が変わった場合、メンテナンスをどのようなタイミングで提供するのかということも、考えていかなければいけないとの意見があった。
- ・委員会として「ツール開発」「標準コードのマッピング」「JLACの管理運用」「臨床検査項目分類コードに対する問題意識と興味」「各施設における日常のマスタメンテナンス」などの問題点が挙げられた。

(2) その他

片岡委員長より、追加の審議事項について提案を求めたが、委員からの発言はなかった。

4) その他

(1) 次回開催予定について

日本医療検査科学会第37回春季セミナー開催時

日時：2023年4月15日（土）午後開催予定

場所：東北大学医学部 星陵会館